

メンター研修会の実施によるミドルリーダーの育成

～若手教員に対する人材育成の実践を通して～

横浜国立大学教職大学院 教育学研究科高度教職実践専攻

鈴木 徹也

1. はじめに

2015年12月21日の中央教育審議会答申において、近年の教員の大量退職、大量採用の影響等による先輩教員から若手教員への知識・技能の伝承を懸念し、ベテランの教員やミドルリーダークラスの教員がメンターとして若手教員等を育成する等、校内研修の充実を図る方策の必要性を示している。

実際に、A小学校の実態として、若手教員の増加とベテラン教員の急激な減少が見られ、今年度の学校経営方針に「大幅なメンバーの入れ替わり」を第一の課題として取り上げ、「チームで育つ、チームで育てる学校づくり」を示している。さらにその実現に向けて、「人材育成」を今年度の重点課題として設定している。

2. 研究の目的

これらのことから本研究の目的は、中堅教員の人材育成における力量形成を目指し、若手教員に対する育成を実践するのみでなく、中堅教員を対象とした研修会を設定し、その評価及び考察を行うこと。研修会における具体的な内容が若手教員に対する育成や支援にどのような効果をもたらすことができたのかを検証することとした。

3. 課題解決方法

そこで、A小学校の中堅教員がミドルリーダーとしての「知識」の獲得を図れること、獲得した知識だけでなく、一人ひとりの若手教員に対するメンタリングの実践を「振り返り、対話」できるメンター研修会を設定した。メンター研修会とメンタリングの実践を往還することで、実践に対する「動機づけ」を行い、中堅教員の人材育成における力量形成を目指した。(図1参照)

また、若手教員に対するメンタリングの実践に関しては、メンティの授業の「省察」に焦点を当て、メンティ自身が授業の課題を明確にもてるための支援を行うこと

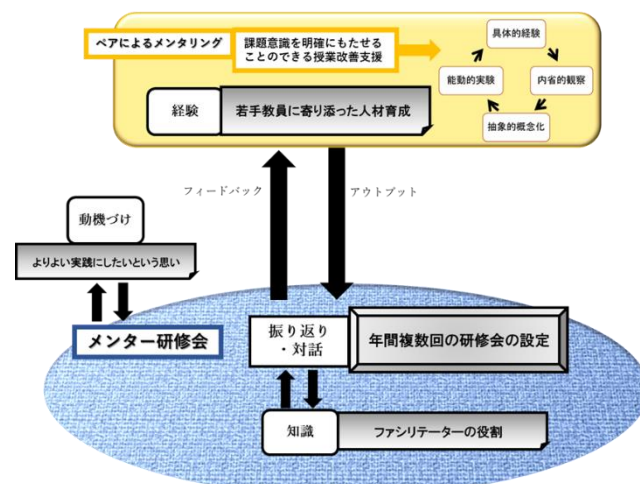


図1 課題解決の全体像

とした。そのメンタリングで活用できる支援シートを2種類作成し、その活用についても効果の検証を行った。

4. 評価方法

メンターの中でも中堅教員である2名を対象とし、年間複数回設定した研修会におけるメンターの発話を取り上げ、その発話の変容を考察することで、評価を行った。

また、メンティの授業の「省察」を支援するために研修会で共有したり、作成したりした「目標に向けてのステップアップシート」と「授業評価シート」の2種類の支援シートについても、メンター研修会での発話及びメンティへの個別インタビューでの発話をもとに、効果の検証を行った。

5. 評価及び考察

実践結果から、当初は若手教員の育成というところに不安を抱えていた中堅教員も、研修会で知識を獲得しつつ、実践を繰り返すことで、自分なりの育成スタイルを構築し、メンティの支援を行うことができるようになった。また、2種類の支援シートの有効的な活用法についても考察することができた。